

| | | |
|---------------|---|--|
| 取組名 | 「間伐が林内の生物多様性に与える影響の評価」の共同研究について | |
| 署等名 | 福岡森林管理署 | |
| 取組を行う背景・経緯 | <p>地球温暖化防止を主な目的として、間伐が推進されているが、間伐が生物多様性に与える影響については十分に評価されていない。生物多様性を保全していくためには、間伐が生物多様性に与える影響を評価し、温暖化防止と両立した森林管理を確立する必要がある。</p> <p>土壌動物を指標として調査し、間伐が林内の生物多様性に与える影響を定量的に評価する。</p> | |
| 実施した取組の内容、成果等 | <p>平成 22 年 2 月 1 日 調査試験地設定のための現地調査を実施し、2 箇所 of 試験地を選定</p> <p>平成 22 年 3 月 15 日 調査試験地 1 箇所設定</p> | |
| 取組体制 | 署長、流域管理調整官が中心となって企画し、国有林をフィールドに大学の研究室と共同して調査研究を実施。 | |
| 自己評価 | <p>平成 21 年度の流域管理システム研究発表会の課題として設定し、また大学の土壌動物の専門研究者に協力依頼し、共同で取り組んだ。</p> <p>間伐後の経過年数と土壌動物の多様性との相関関係から、林内の生物多様性に与える影響を判断するために、長期間の調査データが必要なことから、今後引き続き調査研究を継続する。署管内のヒノキ林に 3 箇所の調査地を設定する予定としており、今年度は 2 箇所の下見を実施後、1 箇所を設定した。</p> | |
| 今後の展望 | <p>土壌動物を指標として調査し、間伐が林内の生物多様性に与える影響を定量的に評価するための調査を実施する。評価結果を基に、温暖化防止と生物多様性の保全が両立した森林管理の判断基準の一つになるのではと考えている。</p> <p>調査結果に基づき生物多様性についての知識を署職員に周知する必要がある。また、今回の取組を小・中学生を対象にした森林環境教育に結びつけることも検討していく。</p> | |
| 新聞等掲載状況 | | |